CASBEE熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

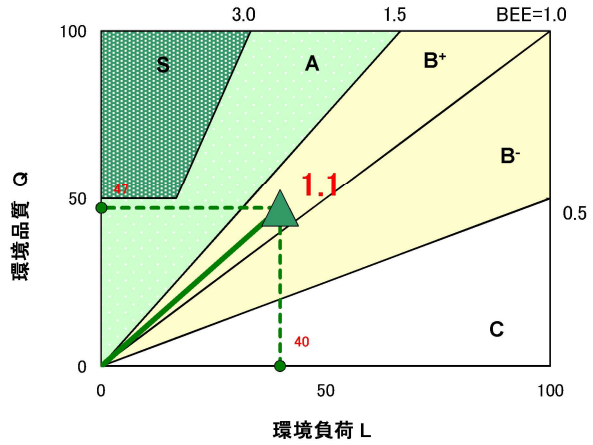
建物名称	(仮称)熊本市中央区南熊本4丁目	階数	地上14F
建設地	熊本県熊本市中央区南熊本4丁目1	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	448 人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年9月1日
敷地面積	1,920 ㎡	作成者	
建築面積	956 ㎡	確認日	
延床面積	9,255 ㎡	確認者	

■ 外観

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆



BEE = 1.1

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

72%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

74

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	56.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	73.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要

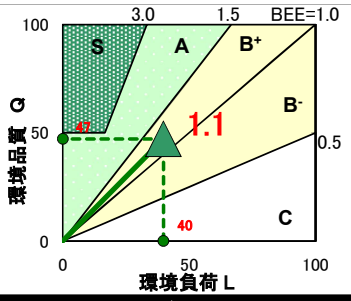
建物名称	(仮称)熊本市中央区南熊本4丁目計	階数	地上14F
建設地	熊本県熊本市中央区南熊本4丁目1	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	448 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年9月1日
敷地面積	1,920 ㎡	作成者	
建築面積	956 ㎡	確認日	
延床面積	9,255 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

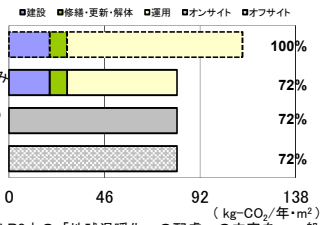


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

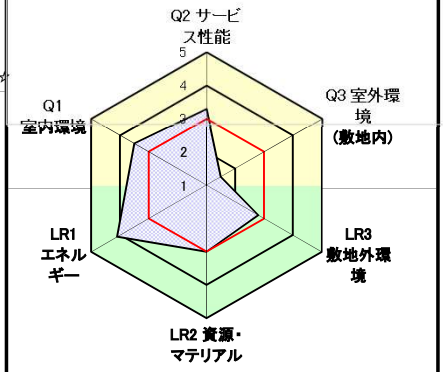
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

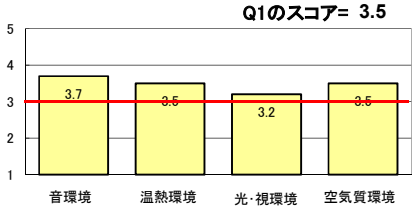
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



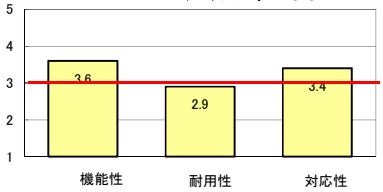
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 — Q のスコア= 2.8

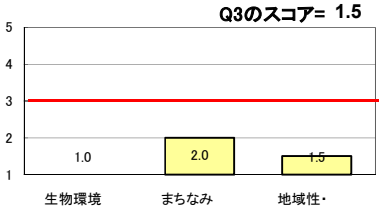
Q1 室内環境 — Q1のスコア= 3.5



Q2 サービス性能 — Q2のスコア= 3.3

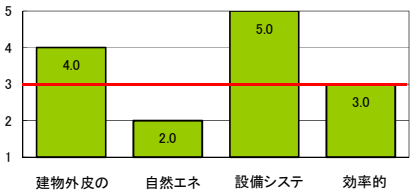


Q3 室外環境(敷地内) — Q3のスコア= 1.5

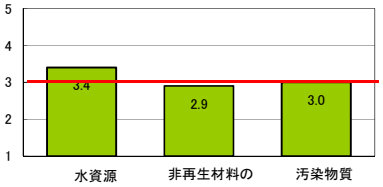


LR 環境負荷低減性 — LR のスコア= 3.4

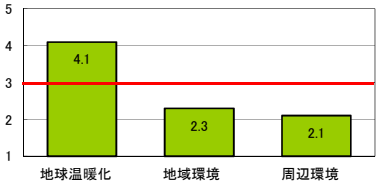
LR1 エネルギー — LR1のスコア= 4.1



LR2 資源・マテリアル — LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境 — LR3のスコア=2.8



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 =74

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 85.0

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 ?#####

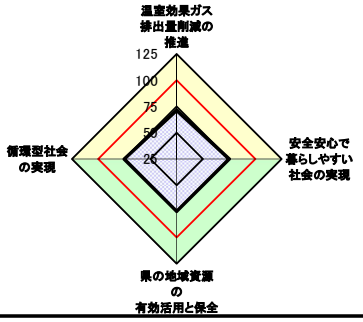
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 70.0

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 = 73.5

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本市中央区南熊本4丁目計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.8**
Q1 室内環境			0.40		-	**3.5**
1 音環境		**4.0**	0.15	**3.7**	1.00	**3.7**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音		**5.0**	0.50	**4.4**	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	Dr55(界壁のｺﾝｸﾘｰﾄ厚さ180mm)	-	-	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	⊿LL(Ⅱ)-2	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	⊿LH(Ⅱ)-3	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		**1.6**	0.35	**4.0**	1.00	**3.5**
2.1 室温制御		**2.2**	0.50	**4.0**	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準、断熱等性能等級4	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		**1.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**2.3**	0.25	**3.5**	1.00	**3.2**
3.1 昼光利用		**1.8**	0.30	**4.0**	0.50	
1 昼光率	2.5%～10.7%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		**2.0**	0.30	**3.0**	0.50	
1 昼光制御		2.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度		**3.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境		**3.0**	0.25	**3.6**	1.00	**3.5**
4.1 発生源対策		**3.0**	0.60	**4.0**	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を使用	3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	**3.3**
1 機能性		**2.2**	0.40	**4.0**	1.00	**3.6**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	**5.0**	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	100Mbitクラスのブロードバンド利用可能	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**1.0**	0.30	**2.5**	0.40	
1 広さ感・景観	居室の天井高2.50m	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		**2.5**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**2.9**	0.30	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.0**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:硬質塩化ビニール管(B)　排水:耐火二層管(B)　E:不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**2.8**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.8	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり		-	-	4.2	0.50	
1 階高のゆとり	階高3.02m	-	-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		—	0.30	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.4
LR1 エネルギー		—	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4に相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.74	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		—	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	居室床下地にパーティクルボードを使用	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		—	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	標準計算による	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		1.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

Q1 室内環境

全戸サッシは複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はＦ☆☆☆☆材料を採用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境（敷地内）

監視カメラを設置して、防犯性に配慮した。

LR1 エネルギー

共用部・住戸内とも主要な照明はＬＥＤ照明を採用した。また給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節水水栓等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。

LR3 敷地外環境

住戸分以上の駐車台数を確保した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	(仮称)熊本市中央区南熊本4丁目計画

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)　　■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	74
重点事項	重点項目(配慮項目)	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
	Q1-2.1.2 外皮性能	1.0	0.05			
	Q1-3.1.3 昼光利用設備	3.0	0.05			
	Q1-3.2.1 昼光制御	2.0	0.05			
	LR1-1 建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
	LR1-2 自然エネルギー利用	2.0	0.20			
	LR1-3 設備システムの高効率化	5.0	0.30			
	LR2-2.1 材料使用量の削減	3.0	0.10			
	LR3-2.3.3 交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
	Q2-1.1.3 バリアフリー計画	3.0	0.25			
	Q2-2.1.1 耐震性	3.0	0.25			
	Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
	Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
	LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
	Q3-2 まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
	LR2-1.1 節水	4.0	0.30			
	LR2-1.2.1 雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
	Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
	Q2-3 対応性・更新性	2.8	0.30			
	LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
	LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　(各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点　＝　(各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数